

青葉台地区 社協だより 第112号

地・域・清・掃・会 花・植・え

11月25日(土)青葉台地区社会福祉協議会主催・青葉台連合自治会共催による地域清掃会が、桜台・若草台地区、青葉台・榎が丘地区、しらとり台・つつじが丘・さつきが丘地区の3地区に分かれ、草取りやごみ拾いなどの清掃と花植の活動が行われました。当日は晴天に恵まれ地域の皆様や学校関係者など300人を超える参加を頂きました。2時間程度の草取り・清掃・花植で収集したゴミの量は、100袋を越えました。この清掃会に参加頂いた大勢の皆様、有り難うございました、今後の活動へのご協力もよろしくお願い申し上げます。



令和5年度 青葉台地区社会福祉協議会 福祉まつり



10月9日(月・祝)青葉台地区社会福祉協議会主催・青葉台連合自治会協力による福祉まつりを、大成祭典駐車場にて雨の降る中開催されました(大成フェア同時開催)。バザーを初め各種模擬店も多数出店され、青葉区長他多方面のお客様が大勢お越し下さいました。ありがとうございました。

青葉区民まつり

令和5年11月3日(金・祝)青葉区民まつりが開催されました。青葉台地区社会福祉協議会も、青葉台連合自治会と協力して、射的2ブースとして参加いたしました。11月3日(文化の日)は雨は降らないと言われていたように、晴天に恵まれ過ぎ暑いぐらいの天気でした。多くの人達がまつりに来られ、射的には来客が1,000人(1人1回とすると)を超え好評でした。



ふれあい広場

令和5年度からは「ふれあい広場」は、第2金曜日・第4金曜日に「ふれあい広場(お楽しみ会)」として、開催してまいりました。今年度から「広場の歌」と「見上げてごらん夜の星を」、会の始めと終わりにテーマソングとしてみんなで歌っています。12月にはクリスマス会・1月には新年会を予定しています。 広場部担当理事一同



●編集後記
これまで好天に恵まれ続けていた福祉まつりが今年度は生憎の雨天開催... スタッフとしては少々過酷な状況下でしたが、無事に終了時の安堵感は何とも言えないものでした。いろいろな反省もありますが、「あの年の福祉まつりは...」と笑いながら語れる思い出が、また一つ増えたと思います! 社協の活動は、雨降って地固まる... この経験を今後活かして、これからもポジティブシンキングでまいります(笑)。

青葉台地区社会福祉協議会
発行人 三部 博 TEL981-8033
編集 広報部 小池・大塚・近藤
滝口・北谷・三宅



賛助会費にご協力ください
青葉台地区社会福祉協議会では、地域福祉の推進財源として皆様のお気持ちによる賛助会費のご協力をお願いしております。
個人1口 1,000円 団体(法人・企業等)1口 5,000円
お申し込み・お問い合わせ、地区社協会長 三部(Tel 981-8033)
事務局 田中(Tel 983-1096) まで

令和5年度 青葉台地区社会福祉協議会 ふれあいバスツアー 2023.11.06

令和5年11月6日(月)青葉台地区社会福祉協議会バスツアーが実施されました、7時15分大成祭典駐車場を小雨の中静岡県掛川市を目指して出発しました、バスは青葉インターより東名高速道路へ入りましたが、東名高速集中工事の為に渋滞に巻き込まれましたが、それなりに走り、御殿場より手前で渋滞も解消され、新東名高速道路へ入りバスを進めました。駿河湾沼津SAにて小休止を取った頃には、雲も切れ始めました、一路「掛川城」目指しバスを走らせ、【東海の名城】掛川城へ着いた時には青空のお迎えでした。「掛川城天守閣」「掛川城御殿」を見学し、バスにていも汁処「とろろ本丸」へ行き、昼食(揚げとろ膳)を食しました。午後は花と鳥とのふれあい「掛川花鳥園」を散策した後、お土産を求めJA掛川市茶直売所「いづく」へより、お土産品をゲットし帰路につきました。帰りのバスは順調に進み予定より早く青葉台へ帰ることができました。

「東海の名城」 掛川城天守閣・掛川城城郭御殿

掛川城の歴史 戦国武将たちの覇権争いの中で 東500mほどにあった掛川古城は、駿河の守護大名今川氏が遠江支配の拠点として重臣朝比奈泰熙に築かせた。今川氏の勢力拡大に伴い、古城では手狭になり、永正9年から10年(1512~1513)頃に現在の地に掛川城が築かれました。永禄3年(1560)桶狭間の戦いで今川義元が織田信長に討たれると、永禄11年(1568)義元の子氏真は甲斐の武田氏に駿河を追われ、掛川城に立て籠もりました。徳川家康は、掛川城を攻め長期にわたる攻防の末、和睦により開城させ、家康領有後、重臣石川家成が入城し、武田氏侵攻に対する防御の拠点となりました。天正18年(1590)全国平定を達成した豊臣秀吉は、徳川家康を関東へ移し、家康の旧領地に秀吉配下の大名を配置し、掛川城には山内一豊が入りました。一豊は城の拡張や城下の整備を行うとともに、掛川城に初めて天守閣をつくりました。

掛川城御殿の歴史 現存する数少ない城郭御殿 御殿は、儀式・公式対面などの藩公的式典の場、藩主の公邸、藩内の政務をつかさどる役所という3つの機能を合わせもった施設です。掛川城御殿は、二の丸に建てられた江戸時代後期の建物で、現存する城郭御殿としては、京都二条城など全国にも4カ所しかない貴重な建築物です。書院造と呼ばれる建築様式で、畳を引き詰めた多くの部屋が連なり、各部屋は襖によって仕切られています。嘉永7年(安政元年1854)、安政東海大地震で倒壊した、時の城主太田資功によって安政2年(1855)から文久元年(1861)にかけ再建されたのが現在の御殿で、明治元年(1868)までの間、掛川藩で使われました。



石落とし 天守台の張り出し部に設けられ、石を落としたり、槍を突き出したりして、石垣を登ってくる敵を攻撃する施設。



籠城き井戸 永禄11(1568)年から12(1569)年徳川家康は、今川氏真が立て籠もる掛川城を攻めました。この時、井戸から立ち込めた霧が城を包み、家康軍の攻撃から城を守ったという伝説があります。



玄関屋根の起り破風と蕪懸魚 破風とは、軒の三角形部分をさし、破風板が上方に凸形に反ったものを起り破風という。棟木の端を隠す飾りが蕪懸魚で、掛川城御殿のものは蕪懸魚と呼ばれる。



御書院上の間 床の間と脇 御書院は城主の対面所で、上の間は主室にあたる。櫃を入れ畳を敷いた床の間と、脇には違い棚が設けられている。右手には付書院を略した障子窓がある。



掛川いも汁処 とろろ本丸

自然薯料理専門店、蔵屋敷風の店内の座敷で、農家直送の「自然薯」の揚げとろ膳をいただきました。



花と鳥とのふれあい 掛川花鳥園

全天候型大型ガラスハウスの園内は、温度が管理され季節を問わず快適空間です。毎日開催されるバードショーでは、お客様の近くを低空飛行で飛んだり、様々な特技を見せてくれたりと、楽しく迫力満点の鳥たちのショーです。フクロウやタカなど、さまざまな鳥が出演します。掛川花鳥園では動かない鳥ハシビロコウの「ふたば」が有名です、広い園内を約100種600羽の多くの珍しい鳥たちが自由に飛び交います。人懐こい鳥たちに餌をあげたり触れ合いを楽しめます。一年中いつ来てもたくさんの花を楽しむことができ、温室内の天井からつり下がる満開の花々(インパチェンス)の景観は圧巻です。

